

氏名	辻本 健	部署	看護学科	職名	准教授
研究分野	小児看護学				
学位	博士（看護学）				
学歴	自治医科大学大学院看護学研究科博士後期課程				
経歴	2018年埼玉県立大学保健医療福祉学部助教 2024年埼玉県立大学保健医療福祉学部准教授				
所属学会（役職）	日本小児がん看護学会、日本小児看護学会、日本小児保健協会、日本看護科学学会、 埼玉県立大学保健医療福祉科学学会				

【2025年度実績】

1. 研究業績						
(1) 著作						
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月
1	該当なし					
(2) 論文						
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌 雑誌名、巻（号）、開始-終了ページ	著者、編者名	発表等年月
1	小児期発症の慢性疾患をもつ移行期患者が小児期医療を受けることに対する課題	共著	あり	地域ケアリンク,27(10),68-71	前田貴彦,辻本健	2025.9
(3) 学会発表						
	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市	発表者（発表者は○印）	発表等年月	
1	成人期医療への移行に関して看護師が小児期発症の慢性疾患をもつ患者や家族から受けた相談事 自由記述の内容から	共同	日本小児保健協会学術集会（石川）	○前田貴彦,辻本健	2025.6	
2	小児期発症慢性疾患を有する患者の成人期医療移行にあたり患者に必要な能力に関する看護師の認識と看護実践	共同	日本看護科学学会学術集会（新潟）	○前田貴彦,辻本健,東岡史	2025.12	
3	小児期発症の慢性疾患をもつ患者の移行期医療における課題に関する文献検討	共同	日本看護科学学会学術集会（新潟）	○東岡史,前田貴彦,辻本健	2025.12	
(4) その他						
	名称	単・共	発表場所等	発表者（発表者は○印）	発表等年月	
1	該当なし					
2. 競争的資金等の研究						
	競争的資金等の名称	研究名		研究代表者・研究分担者の別	研究期間	
1	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究（C）	AYA世代の小児期発症慢性疾患患者の包括的看護支援ガイドラインの開発		研究分担者	2022.4～2027.3	
2	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究（C）	退院後の小児がん患児をもつ親のレジリエンス向上のためのケアモデルの開発		研究代表者	2023.4～2027.3	

3. 教育業績				
(1) 講義				
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	小児看護学Ⅱ		2	講義として、「血液・腫瘍疾患をもつ子どもと家族の看護」と「End of Lifeにおける子どもと家族の看護」を担当した。 「血液・腫瘍疾患をもつ子どもと家族の看護」では、主な血液・腫瘍疾患の症状、観察ポイント、治療法、そして子どもおよび家族への看護の必要性和その方法について理解を深められるよう、動画や紙芝居、絵本などを用いて、視覚的にもイメージしやすい対面講義を行った。さらに、授業内でグループワークを取り入れることで、多角的な視点からの看護の検討が可能となるよう授業を構成した。 「End of Lifeにおける子どもと家族の看護」では、子どもの認知発達や体験に応じた死のとりえ方、子どもと家族の体験および看護のあり方について、動画を用いて理解を促した。
2	子どもの保健		9	講義2コマ担当、演習2コマは主担当した。「良くみられる子どもの症状への理解と対応」、「病気をもつ子どもと家族」に関する講義を行った。看護学科の学生ではないため、動画や絵本を用いて学生がイメージしやすいように工夫した。また、演習2コマの「バイタル測定」「内服支援」においては主担当を行った。演習内容の企画、演習物品の準備、整備、演習室の設営を行い、学生が子どもに興味を持ちバイタル測定できるよう、子どもの特徴を伝えるなどの工夫をした。レポート評価やワークシート・レスポンスカードのコメントを行った。
(2) 演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	小児看護学Ⅲ	○	15	科目責任者として、評価表について担当教員と協議を重ねながら整理した。評価においては、評価指標を目的・目標に照らして再検討するとともに、振り返りシートにも評価指標を組み込み、学生が自己の学習状況や到達度を適切に把握・評価できるよう工夫した。 また、4グループ（学生28名）を担当し、川崎病の事例を用いたPBL（問題基盤型学習）の要素を取り入れ、グループ討議を通して、子どもとその家族に対する看護の必要性や方向性について、学生自身が討議の中から見出せるよう支援した。
2	小児看護学Ⅳ		15	「輸液管理」「内服」「清潔ケア」において演習の主担当を行った。演習物品の準備、整備、演習室の設営を行った。学生が事例の子どもと家族への小児看護技術を主体的に習得できるように支援した。レポート評価やワークシート・レスポンスカードのコメントを行い教育に参画した。
(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	小児看護学実習		2025.8.19～8.28 10.28～12.18 (2単位90時間 ×5クール)	学生29名を担当し、子どもの安全を守り、個々の学生に合わせた実習指導を臨床指導者と連携を図りながら指導を行った。

2	総合実習		2025.7.8～7.25 (3単位180時間)	学生6名を担当し、実習前の事前ゼミにおいて、学生個々が探求したい課題を明確にし、総合実習計画書を作成できるよう指導した。病棟の状況によって学生の課題に沿った受け持ち患児が持てない状況の中で、個々の学生が課題とする看護が実施できるよう、また、看護の効果を確認できるように臨床指導者と連携を図りながら指導を行った。	
3	IPW実習		2025.9.29～10.2 (1単位45時間)	学生6名を担当し、円滑に実習が進むように実習施設のファシリテーターと事前に、また実習を進めながら調整を行った。学生達のグループワークにおいて、進み方に合わせて、ファシリテートおよび指導を行い、発表に至るまでを支援した。	
(4) 論文指導					
	対象		期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	卒業論文		2025.4～2026.1	主指導 4名	副指導 名
(5) その他					
	名称		期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	該当なし				
4. 社会貢献活動					
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師					
	講演会、研修会、公開講座等の名称		主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	性・エイズ講演会		群馬県立館林高等学校	「性の健康 性感染症予防と避妊」	2025.10
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等					
	国、自治体、学術団体等の名称		委員等の名称		任期
1	該当なし				
(3) ジャーナリズムでの発言					
	メディア等の名称		内容		年月
1	該当なし				
(4) その他					
	項目		相手方等	内容	期間
1					
5. 学内運営					
	項目		内容		期間
1	全学的委員会及びセンター業務等		共同実験管理部会		2025.4～2026.3
2	学科等における委員会等		看護学科 実習計画調整		2024.4～2026.3
3	学科等における委員会等		学生支援委員会 国試対策担当者会		2025.4～2026.3
4	大学広報活動		オープンキャンパス		2025.6
5	学生支援		担任（進路などの相談・支援）		2023.4～2026.4
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）					
	受賞名		主催		受賞年月
1	該当なし				
7. 特許の取得					
	特許名		特許番号		登録年月
1	該当なし				
8. 特記事項					
	該当なし				